

令和2年度第2回 京都市市民参加推進フォーラム 摘録

■開催日時：令和2年10月2日（金） 午後3時00分～午後5時00分

■開催場所：職員会館かもがわ3階 第1・第2多目的室

■議題：

- (1) 市民参加フリートークセッションの開催結果について
- (2) 第3期「京都市市民参加推進計画」の策定に向けての提言書（案）について
（「市政参加」検討部会、「まちづくりの活性化」検討部会に分かれて議論）

■報告事項：

- (1) 新たに設置された附属機関等について
- (2) 市民参加に関係する新しい事業や取組について

■公開・非公開の別：公開

■出席者：市民参加推進フォーラム委員12名

（荒木委員，乾委員，内田委員，金田委員，兼松委員，木村委員，篠原委員，
嶋倉委員，橋本委員，壬生委員，森川委員，森本委員）

■傍聴者：3名

■特記事項：

動画共有サイトYouTube（ユーチューブ）を利用し，後日，音声配信を実施する。
Zoomを用いたWeb会議と併用開催した。

【議事内容】

1 開 会

2 座長挨拶

<内田座長>

事務局から議題と本日の流れについて説明をお願いします。

<事務局>

（議題の説明，資料確認，時間配分について説明）

3 議題

議題（1）市民参加フリートークセッションの開催結果について

<内田座長>

それでは、早速、議題に入りたいと思う。まず、事務局から資料の説明をお願いします。

<事務局>

（資料1「市民参加フリートークセッション」開催報告」、資料2「市民参加フリートークセッション」レポート」、資料3「第3期「京都市市民参加推進計画」の策定に向けての提言書（案）」説明）

<内田座長>

全体で確認したいことがあれば、ご意見をいただきたい。

<内田座長>

特にないようであるため、各部会に分かれて詳細の議論をお願いしたい。

<事務局>

これから、「市政参加」検討部会と「まちづくりの活性化」検討部会の2つの部会に分かれて、ご議論いただきたい。

議題（2）第3期「京都市市民参加推進計画」の策定について

| |
|------------|
| 「市政参加」検討部会 |
|------------|

<壬生部会長>

それでは、部会において、議論を進めたい。

（第2章 基本方針2）

<橋本委員>

提言書で気になる表現があったが、ターゲットにより変わると思う。この提言書をもとに、施策を実施するのは市役所職員という理解で良いか。

<事務局>

提言書は市長に提出するものである。提言書を基に計画を策定する。その際にも、分かりやすい表現になっているか確認していただくが、今回はフォーラムの考えが市長に伝わるかという観点で見えていただきたい。

<橋本委員>

提言項目7は、後半の表現が分かりにくい。表現の重複があり整理が必要ではないか。

<嶋倉委員>

市政参加とは何か、最初に記述した方が良いのではないか。

<壬生部会長>

対象は市長ではあるが、丁寧な表記にするか検討した方が良いのではないか。

<乾委員>

提言項目6には、京都市における大学生のインターンシップも盛り込んでどうか。

<壬生部会長>

市職員との交流を通じて市政に関心を持つという声をよく聞くので、インターンシップだけでなく、市職員との交流も含めて追記すると良いかもしれない。

<橋本委員>

カタカナ語が多いことが気になる。提言項目5のナッジ的手法、提言項目8のCSVなど、このような用語を使う必要があるのか。カタカナ語ではなく、説明があれば良いのではないか。市民を対象にした時の考慮が必要である。

<乾委員>

誰を読み手とするかにも依存する。これまでは、ビジネスにおけるマネジメント要素などを行政に取り入れていこうという観点があったと思う。社会で議論されている 이슈を取り入れていこうという意味では、最新のワード・動きが入るのは良いと思う。市民に伝える際には表現の工夫は必要だと思う。

<壬生部会長>

フォーラムから提出する提言書であるため、委員が分かっている言葉を使いたい。「まちづくりの活性化」検討部会とも表現内容の調整が必要であると思う。

<壬生部会長>

提言項目5には、2つの意味が含まれていると思う。参加のハードルがある人に参加し易い工夫をする観点と、つつい参加する仕掛けのデザインをする観点である。この表現では、つつい参加する方の観点が薄まるのではないか。項目数を増やしたいわけではないが、別項目として分けても良いかもしれない。過去の議論でも、つつい参加するという観点が大事だという意見がでていたので、もう少し目立つようにした方が良いと思う。

<橋本委員>

提言項目5の「外国籍市民」という表記が気になる。「言語や文化背景が異なる市民」と

いう表記の方が良い。

<嶋倉委員>

全体的にカタカナ語が分からなかった。例えば、ナッジ的手法や CSV 等に注釈がついて
いると良いと思う。

<乾委員>

ESG 投資などのキーワードも入れても良いと思う。時間的に難しい面もあったが、前提で
ある用語等の議論をもっとできれば良かったと思う。

<事務局>

カタカナ語の使用は、行政もジレンマを感じている。市民への理解を重視する時は理解
し易いように記述するが、理解し易いだけで良いのかという観点もある。時流に追いつい
ていく時は、あえていれることもある。行政も、相手や目的に応じて使い分けている。

<橋本委員>

職員が勉強するためなら問題ないが、市民が対象であれば、カタカナ語を多く使うこと
で、自分が読む提言書ではないと排除を感じるのではないか。

<事務局>

全ての提言項目を全ての人を対象にして記載すると、逆に分かり難くなることを懸念し
ている。カタカナ語を多く使う内容は、あえてその言葉を使うことで、これまで市政参加
に関心が低かった民間企業の人に関心を持っていただけることもある。提言項目毎に、対
象者に合わせた表記に整理したい。

<木村委員>

言いたいことが伝わる言葉を使うと良い。意図が伝わることを大事にしたい。

(第2章 基本方針1)

<木村委員>

提言項目 1 の表現が、到達すれば良いという印象を受けた。到達だけでなく、伝わるこ
とが大事である。その内容をタイトルに入れた方が良いのではないか。

<壬生部会長>

到達という言葉には「伝わる」という意味も入っているようだが、同じように思った。

<橋本委員>

到達主義なのか，到達重視でも良いのではないか。

<壬生部会長>

括弧書きの表記は，届けた対象なのか，届けたい対象なのかが分からない。表現の見直し・工夫が必要である。

<嶋倉委員>

提言項目 2 は，文章が長いため，修飾語が何を修飾しているか分かり難い。

<兼松委員>

提言項目 3 は，対話の先に何をするのが見えない。今は対話を始める段階かもしれないが，対話止まりに見えた。対話の場から生まれたアイデアを支援する仕組み作りも重要であるような，対話の先の表記を付け加えてはどうか。

<事務局>

提言項目 13 の中に，対話の先の要素が入っているので，併せて確認していただきたい。

<壬生部会長>

提言項目 3 が，提言項目 8 や 13 につながる事が分かるが良い。基本方針間のつながりが分かるように記載していただきたい。

(第 1 章)

<事務局>

目指す地域社会の姿の表現を少し変更している。これまでの議論を踏まえての変更ではあるが，冗長な部分が無いか等，ご意見をいただきたい。

<乾委員>

大学だけでなく，学校として表記した方が良いのではないか。また，包摂の観点が入ると良いと思う。

<橋本委員>

文章が長いので，2 つに分けてはどうか。

<木村委員>

コロナの影響についても触れても良いのではないか。

<事務局>

9 ページに、コロナの影響に関する議論を受けて、重視する視点を追加している。この内容についてもご意見をいただきたい。

<乾委員>

支援し合えるという部分に包摂の観点を感じた。協働・包摂のまちづくりに表記を変えても良いと思う。コロナで打撃を受けている中、協働を押し進めるだけではなく、まずは支えて欲しい気持ちもある。状況に応じて、一緒にまちを理想の形にしていく理想像があっても良い。

<壬生部会長>

共に支援し合えるという観点がどこまで本文に反映されているのか。共に支援し合える、包摂の観点を反映した本文になると良い。

<橋本委員>

地域での「活躍」から、一億総活躍の印象を受けた。変えても良いかもしれない。

(第3章)

<乾委員>

提言項目 16 は、人事部の所管だと思うが、提言項目 14 にある、市民参加全体の推進や組織風土の醸成は、どの部局が管轄してマネジメントするのか。ここが明確にならないと、PDCA もうまく回せないのではないか。

<事務局>

市民協働推進担当であると考えている。総合企画局は、全局区が連動して取り組むべき施策をマネジメントする位置付けである。

<事務局>

マネジメントは市民協働の責任であるが、政策への反映は、各局区の担当が行うべきことである。どれだけ反映されているかを把握しチェックするのが、市民協働の役割である。

<壬生部会長>

提言項目 14 と 16 だけ、1 行目が太字であることに意味はあるのか。

<事務局>

提言項目 15 は、京都市の基本的な方針に則した表記に留まっているため、最も身近な行政機関である区役所に関するご意見をいただきたい。

<橋本委員>

上京区の区役所は良いところだと思う。バス待ちの人が、自然にバス待ちの時間を過ごしている。市民に開かれた良い場所だと思う。

<木村委員>

推進体制が膨らんで大きくなる提言になっていないか。財政の問題もあるので、体制のスリム化も併せて考えないといけないのではないか。効率化の観点も必要である。

<嶋倉委員>

提言項目 15 は、区役所に行くことがないため何ができるのか分からないが、区役所で何ができるのかについて、市民へ PR が必要ではないか。

提言項目 16 は、対話の力が曖昧だと感じた。誰との対話なのかが分かると良いと思う。

<事務局>

引き出す力と対話の力はセットの表現であるが、句点で分かり難くなっていると思う。整理して修正したい。

<乾委員>

計画を決めて、現場で最も良い状態に整えて変えていくのが区役所だと思う。重点項目や目標を決めて、市民が関われる形で達成度を評価して、より市民のためになるよう変えていく進め方が良いのではないか。

(その他)

<乾委員>

職員が担う市民協働ファシリテーターへの言及はあったが、まちづくりアドバイザーについても記載した方が良いのではないか。

<木村委員>

6 ページに、新時代に対応するための改革とあるが、実際には社会環境が変わっていく中でも、市民参加を着実に進めるという意味だと理解できるので、改革ではないと思う。

<壬生部会長>

新時代に対応することの必要性という表現に変えた方が良いのではないか。

<乾委員>

新時代への適応力を高めていくという表現はどうか。

「まちづくりの活性化」検討部会

<森川部会長>

それでは、部会において、議論を進めたい。

(全体)

<荒木委員>

今の提言書は、文章が中心で、かつ提言項目が並列に構成されているので、「まちづくり分野において、どこに力点が置かれているのか」が分かり難く感じる。俯瞰したまとめ図などで、全体像が見えると良い。

<森川部会長>

前回の第1回フォーラム会議で、京都市の資料において、計画書案の中で図示されていたように、最終的な計画の中では、全体像が図示される予定である。ただし、今回の提言書でも図示する方が、市民にとっても読みやすいとは感じる。

(提言項目 15)

<森本委員>

全体的に分かり易くて良いと思うが、提言項目 15 で区役所の話が突然出ているので、他の項目にも区役所の話を入れた方が良いのではないかと。

<森川部会長>

これまでのフォーラム会議では、区役所に関する議論があまりされていなかった。しかし、フォーラム委員での議論を踏まえて実施する際の推進体制として、現計画を踏まえ、事務局から提案が出てきたという経緯がある。

<事務局>

現在の計画でも推進体制として、区役所に関する項目があり、市民・区民に身近な区役所の役割として、体制強化や対話の場作りなど、様々な市民協働の取り組みを進めてきた。その中で、市民・区民に身近な組織として、区役所の役割を改めて掲載している。文言は、京都市の基本計画で審議されている内容を引用しているが、フォーラム委員から、身近な感覚として、区役所の役割や期待することについて、ご意見をいただきたい。

(提言項目 9)

<森本委員>

「楽しさや意義を感じてもらおう」という文言の前に、「参加のハードルを低くする」を先に入れた方が良いのではないかと。

(提言項目 15)

<篠原委員>

区役所の役割については、もう少し書き方を変えた方が良いと思う。区役所は、既存のまちづくり組織・団体（自治会など）と密接な関係があるので、新しい人達に、どのようにまちづくりに参加してもらおうのかという視点は、より具体的に書かないと伝わり難いと思う。今の記述は、普段から区役所が接している地縁組織の人たちと、より協働していただきと読めるので、それだけではないことを提言の中に入れた方が良いのではないかと。

<内田座長>

タイトルの付け方で、最も身近な区役所の役割をどうすると良いのかという記載になっていない。今のままでもっと進めてくださいという意味なのか、新しい関係が作れるようにした方が良いという意味なのか、記載の工夫が必要だと思う。

<篠原委員>

区役所で聞く話とフォーラム会議で話す内容において、区役所の役割に関して温度差を感じた。

(提言項目 11)

<森川部会長>

京都市が「地域コミュニティ」という言葉を使う時には、自治会・町内会とほぼ同義の言葉として使っている印象がある。これから先の自治組織の在り方や地域社会の中での協働の在り方は、もっと色々な形が試されても良いと思う。例えば、六波羅学区は、地域の人達が内部で繋がることを大事にしながら、専門家やNPO等の外部の人達とも上手く繋がり、内外一緒になってまちづくりを行うような調整が上手く行われている、とても良い開かれたコミュニティになっている印象がある。「地域住民相互の交流を促進することにより地域のつながりを強化する」という文言があるが、交流のような曖昧な表現ではなく、利害が一致する価値を共有することで繋がりが強くなる場面もある。繋がり方、協働の進め方も、色々な方法を試していく方が良いのではないかと。

(提言項目 4)

<荒木委員>

パブコメの新しい形も模索していくという内容を入れても良いと思った。全国的に見てパブコメが上手くいっていないこともあるため、市民トークセッションで行われたアイデアソンの内容が提言書に反映されると良いのかもしれない。

(提言項目 6)

<荒木委員>

大学は、学生だけではなく、教員や職員、ボランティアセンター職員等のステークホルダーも重要だと思う。また、ボランティアセンターの運営を担っている学生が、市民参加や市民活動をつないでいる面があるので、その内容も提言書に反映できると良い。

(提言項目 15)

<篠原委員>

京都市やNPO法人が主催の活動を入口に、まちづくり活動を始められる人達が居る。そのことに価値があると思っているが、その人達が、自治会活動に参加することや自治会の担い手になる例があまり無いという話を聞いた。実は自治会では、新たにまちづくり活動を始める人達を必要だと思っていないのではないかという意見があった。しかし、自治会に入らなくても、まちを良くしたいと思う人が増えることは良い事だと思っているので、皆さんの意見も伺いたい。

<内田座長>

多様なまちづくりの担い手同士が、互いを認識できていないような状況がある。

<篠原委員>

必ずしも、担い手同士と一緒に活動をする必要はないかもしれないが、互いに勝手に活動しているという認識であれば問題だと思う。既存の活動も新しい活動もどちらも大事であるので、どちらも含めてスクラップアンドビルドする時期かもしれない。区役所は、大変かもしれないが、既存の地縁団体と新しく生まれる活動団体の両方を大事にして、そこをつなげる役割があるかもしれない。

<内田座長>

区役所職員も、既存の組織と新たなNPO等の組織が上手くつながれるよう意識する姿勢を持てると良い。これは、9 ページ目の 1-4 に新たに加えられている「共に支援し合える協働のまちづくり」という項目の中で、具体的な提言項目や取組例を入れられると良いと思う。新しい提言項目を作るか、提言項目 12 の中で具体的な記述として入れられるのではないかと思う。

<森川部会長>

自治会とNPOの関係については、昔からの課題であるが、あまり解決されてはいない。

<荒木委員>

自身の行っているNPOでは、住民福祉協議会と一緒に活動しているが、これはレアケースという印象がある。自治会とNPO双方の中心人物のリーダーシップやスタンスが、通常それぞれ異なる。自治会は、地域に誇りを持って活動されている場合が多く、その会

長のオープンさが、他の組織と連携できるかを定める大きな要因になると感じる。また、NPOは世代が様々であるが、自治会はある程度年配の方が中心であるため、若い人が多いNPOでは、自治会とフィーリングやスピード感が合うことが少ないと思う。しかし、対話の機会や接点が1つでもあれば、一緒に活動できることもある印象である。

<森川部会長>

京都には、自治組織以外にも、お祭りに関連するコミュニティ（祇園祭山鉾連合会など）や、神社や職人さんなどの非常に密なコミュニティといった多様なレイヤーがあるが、そのレイヤーを超えて行き来したり、レイヤー間をつなぐ人があまりいないと思う。それぞれのレイヤーで守ってきた伝統や価値観があるため、そこを互いに理解しながら連携することに難しさがあるのかもしれない。しかし、そこを超えてつながらなければ、京都に発展性が無いようにも思う。提言書にこのような内容を書くのは難しいが、チャレンジを始めても良いと感じる。

<篠原委員>

まちづくりを始めようと思った人にとって、一番身近な入口の1つが区役所である。区役所が、新しくまちづくりを始める人達を招き入れる活動が重要な1つの役割であるため、その文言を入れられると良い。

<事務局>

教育委員会事務局との意見交換時に、京都市の基本計画を教科書にしてシチズンシップ教育を行えないかという話をした。また、区の基本計画策定に、学生が関わった事例があると聞いて、区の基本計画を知ることで、将来的な市政参加に繋がる可能性があると感じた。身近な所から、市政参加が始まるのは、凄く良いと思う。

<森川部会長>

今までフォーラムとして、区役所の話をしてこなかったもので、この議論を踏まえて、区役所にどういうことを期待するのかを、提言書に反映できると良いと感じた。

(第1章)

<事務局>

目指すべき地域社会の姿等についても、ご意見を伺いたい。

<森川部会長>

あらゆる主体として、市民・地域の住民組織などがフラットに並列に記載されているが、このフラットさは実感としてはあまり無い。どうすれば、このようなフラットな関係になれるのかと思う。

(提言項目 8)

<金田委員>

ここのチャレンジングな項目は評価する。

(提言項目 11)

<金田委員>

「地域コミュニティの活性化」という用語が難しいかもしれないので、その用語の説明が必要かもしれない。

(提言項目 16)

<金田委員>

参考部分の神戸市の取り組みやナッジについては、もう少し読みたくなるような書き方、吹き出しや囲みの体裁などデザイン面でも、もう少し工夫があると良い。

(基本方針 1・2)

<金田委員>

「はじめる・つながる・ひろがる」が分かり易い。項目を「まちづくり×はじめる」のようにクロスされているのが良い。

(その他)

<荒木委員>

まちづくりプレイヤーが主体的に動こうと思った時に、他のプレイヤーと必要に応じてつながることが重要だと思う。全プレイヤーが集まれる場が必要な訳ではなく、全てのプレイヤーがまちづくりの主体になれて、尊重されていて、つながれるという状態が大事なのではないか。つなぐ機能は、行政や中間支援組織が一番活躍する所だと思うが、どのプレイヤーもつなぐ存在になれるのが、今のリーダーシップの在り方だと感じる。支援される立場であっても、つなぐ存在にもなれることが良い。

<森本委員>

全員が主体として動けるのは、凄く良い。区役所の役割として、新しくまちづくりを始められる方に対するサポートがしっかりと記載されていると良い。

<内田座長>

これまでは、市民参加推進計画を進めていく上で、行政から地域・NPOへ支援する視線が中心であったと思う。これからは、支援する・されるという関係から、一緒に何かを行うという段階に上がってきていると感じる。民と民の間での支援関係や、民が行政を支援するなど、矢印が一方方向ではなくなると思う。

<森川部会長>

京都市と25年の付き合いがあるが、その中で、京都市がトップダウン型に変わったという印象がある。現場に近い職員が、協働で頑張ることが難しくなっていたり、市民側も「上に話を通した方が早いから、局長以上に話をする」となってきたりするように感じる。上司の話に振り回される職員を見かけることもあり、協働を阻害する要因のように思う。

全体共有

<壬生部会長>

- ・基本方針2、最初に市政参加の補足説明があった方が良い。
- ・提言項目6と7、順番を入れ替えた方が分かり易いのではないかな。
- ・提言項目7、成果の共有だけでなく、参加して嬉しかったことの共有も大事である。
- ・提言項目6、市役所での大学生のインターンシップ、職員との交流機会の創出を記載しても良いのではないかな。
- ・全体を通して、カタカナ語が多い。対象に合わせて分かり易く記載するのか、時流を踏まえるためにあえて記載するのか考える必要がある。カタカナ語を使う際には、注釈がある方が良い。提言で言いたいことが伝わる表現にしたい。
- ・提言項目1、到達した先で伝わることの重要性もタイトルに入れた方が良い。
- ・提言項目2、信頼や学びにつながるという修飾語がどこを修飾しているのか分かり難い。誤解を生まないような表現にしたい。
- ・提言項目3、対話して終わりではなく、対話の先に何が必要か、触れておく必要があるのではないかな。まちづくり活動の提言項目13とも関連するのであれば、関連が分かるように記載した方が良い。
- ・第3章、財政状況が厳しい中で、費用対効果も考えた取り組み内容の精査も必要である。
- ・提言項目15、区役所はオープンな場所で良い所であるという意見がある一方で、区役所でできることのPRが必要であるという意見があった。

<森川部会長>

- ・全体、文章メインで構成されているが、提言項目同士の関連性、力点などがわかりにくいのではないかな。前回のフォーラム会議資料のように、図解を提言書にも入れてもどうか。
- ・多様な主体がどのように連携し、それぞれの活動を広げていけるのか。目指すべき地域社会の姿は理想としてありつつも、現実はそうならない。
- ・提言項目15、区役所の役割として、区役所は地域の自治組織とのつながりが強いが、NPOや京都にある色々なレイヤーの様々なコミュニティをつなげていくような役割も考えられるのではないかな。
- ・提言項目11、地域コミュニティの活性化と記載されているが、地域における繋がりや協働のあり方について、もっと多様性があっても良いのではないかな。例えば、自治会とNPOがつながるためには、何があると良いのかな等。

・まちづくりにも、新しい多様な主体が出てきて欲しい。一方で、京都の伝統を継承する活動・組織も大事にしつつ、それらをどのようにつなげていけるのかを考える必要がある。

<内田座長>

これらの意見については、提言書案にどう反映するか、検討し、とりまとめさせていただく。今後のスケジュールについて、事務局に説明願いたい。

<事務局>

10月28日に提言書の提出を予定している。それまでに提言書の修正作業を進め、適宜、各委員にメールなどで連絡調整と共有をさせていただきたい。追加で修正部分、意見などあれば、事務局にメール、スラック等で連絡いただきたい。また、結びのコメント文についても、ご連絡いただきたい。10月16日を目途に、最終的に提言書文を確定させ、共有したいと考えている。10月28日の提言書提出日は、出席可能な委員にはご出席願いたいので、出欠確認はまた、別途連絡する。

4 報告事項

報告事項（1）

<事務局>

（資料4「新たに設置された附属機関等に係る協議結果（一覧）」報告）

報告事項（2）

<事務局>

（資料5「市民参加に関係する新しい事業や取組」報告）

<内田座長>

以上で本日の議題、報告事項は終了となる。皆さん、どうもありがとうございました。

5 閉会

<事務局>

本日も活発な御意見、ありがとうございました。本日が、提言書提出に向けた前半の山場になるが、引き続き、追加のご意見があればいただきたい。今後は、市長に提言書を提出いただいた後、計画骨子のパブリックコメント案について御議論をいただくなど、色々とお願ひすることになる。ご多忙の中、時間の短い御照会をすることもあると思うが、引き続き、宜しくお願ひしたい。

以上